

【修学旅行終了！】

12月3日（日）から、6日（水）までの四日間、2年生が修学旅行に行ってきました。広島～京都～大阪を巡る旅でした。3日目のユニバーサルスタジオでは小雨にみまわれましたが、殆どは晴天に恵まれ、生徒は様々な体験や見聞を通して、普段の世界から視野が広がったのではないかな、と思っています。生徒9名という小規模ということもあり、行き帰りの移動以外は、全て現地の鉄道やバスというユニークな旅でした。旅行会社の方にもこのような企画を立てていただき、感謝しています。四日間、ほぼ全員、病気・怪我・トラブルもなく、予定の時間通りに帰校することができました。今回の旅をきっかけに、生徒自らが活動の幅を拡げ、外の世界に飛び込もうという意欲が高まる事を期待したいです。



【生徒だって熟議！】

11月24日（金）、学校参観日でしたが、3年生は、学校運営協議会委員さんとの「熟議」に臨みました。諸塚の将来について大人との「同等の」立場で意見交換を行いました。3グループに分かれ、教育委員会の方々にも参加してもらい、「諸塚の将来」と、「今、自分たちに出来ること」2つのテーマで行いました。最後には各班での内容を発表し、みんなで共有しました。大人も子どもも、真剣に故郷の将来を考えることは当然のことです。



【ふれあい諸塚村民大会にて】

11月25日（土）は、諸塚村中央公民館で「ふれあい諸塚村民大会」が開催されました。村内でこれまで別々に実施されてきた、「PTA研究大会」や「公民館大会」、「婦人大会」を一つにまとめたものです。当日は、学校関係者だけでなく、様々な年代の方々が参加されました。その中で、生徒の意見発表があり、本校からも生徒会長、黒木梁太郎君が、授業での学びをもとにした諸塚村の将来への提言を行いました。生徒もこれから様々な経験を積み重ねていくことで、様々な能力を高め、将来は諸塚の将来を担う人材へと育ててくれるであろう事を期待させる内容でした。なお、発表原稿を裏面に掲載していますのでご覧ください。

【皆さんはどうですか？】

大好きなシンガーの一人、尾崎豊は、私と同じ年齢です。残念ながら、彼は26歳という若さで亡くなってしまいましたが、「社会への反抗・疑問」や「反支配」というテーマで多くの歌を発表し、今でも多くの支持を得ています。

彼の代表曲に『15の夜』があります。歌詞には賛否もありますが、その中で、「自分の存在が、何なのかわからず震えている15の夜」という歌詞があります。「十五の春」に向けては、いつも希望に満ちた事ばかりでなく、時には自分の将来への不安、迷いもあるのではないのでしょうか。今でも私はこの曲を聞く度に、自分の15歳頃を思い出しています。彼はその思いを歌にぶつけました。皆さんは迷い、悩んだときにその思いをぶつける何かをもっていますか？

今年は、コロナ禍からの脱却を目指し、多くの村行事が再開されました。それに伴い、中学校も地域との連携行事を復活させる事が出来ました。村内外の方々の協力の大きさを改めて実感する1年でした。来年も引き続き、充実した学校運営のため、皆様のお力をお貸しいただければ幸いです。1年間どうもありがとうございました。

来年もよろしく願っています。

「学びを未来へ」

黒木 梁太郎

私は諸塚村のことが大好きです。朝目が覚めた時から聞こえる鳥のさえずり、窓を見れば外には緑の山々が広がっています。自然が豊かで村民の方々も温かい。諸塚村で過ごせる毎日は宝物です。そんな諸塚村は今、大きな問題を抱えています。少子高齢化です。日本全国で問題になっていますが、諸塚村はより深刻です。そんな時代だからこそ、私は諸塚村にどんな人でも安心して過ごせるような村になって欲しいです。

私たちは、社会科の時間で「諸塚村の課題をどうしたら解決できるのか」という内容の授業をしました。九州や四国、中国地方の取り組みや、課題などの事例を学びました。そして、そこで学んだことを、諸塚の問題解決に活かすにはどうしたらよいかを考えました。

その授業の中で、利便性を上げるために作られた道路によって、地方の人口が大都市に吸い寄せられるというストロー現象について学びました。それを、諸塚村のことと繋げて考えてみました。諸塚村では飯干バイパス開通という大きな計画があります。この道ができれば、五ヶ瀬町や高千穂町、熊本県や大分県への移動時間が大幅に短縮されます。セツ山集落から、高千穂病院までは現在47分かかります。しかし、この道ができれば19分まで短縮されます。つまりこの道ができることで助かる命が増えるということです。これは、誰もが安心して過ごせる村づくりに繋がります。また、村を出て行ってしまった若い人達の帰省もしやすくなります。諸塚村では自然を生かした仕事が多く、村でできる仕事の種類は多くありません。しかし、他の地域のようなストロー現象が起こることはなく、「諸塚に住みながら、周辺の市町村へ仕事に通う。」そんなことも可能になります。つまり、飯干バイパス開通は諸塚を活気づけ、誰もが安心して過ごすためには欠かせないに存在になっていくと思います。

また、諸塚村には知られていないだけでたくさんの魅力があります。

森林は世界農業遺産に認定され、FSCにも認証されました。東京の国立競技場の一部にもその木材は使用されました。そこで、わたしたち2年生は諸塚の課題である少子高齢化を少しずつ解決するために「諸塚ブランドの価値を高める」必要性を感じています。

現在、様々な環境破壊や異常気象により、多くの人たちが苦しんでいる状況があり、世界は「自然を大切にし、共存しよう」という大きな流れがあります。そこから、世の中は環境に配慮し持続可能な製品を求める時代になっています。そこで、木材の原材料そのままやこれまでの伝統的な製品だけでなく、時代のニーズに合った商品を「諸塚ブランド」として世の中に出していくとよいと思います。例えば、諸塚の木材を使ったスマホケースや、木材から選べるオーダーメイド家具、しいたけを使用したインスタント製品などです。そして、「諸塚の商品を使うこと」イコール「環境に負荷をかけない、環境に優しい」というブランドを確立させていきます。また、その製品情報を海外にも発信していくことで、さらにブランドの価値が上がっていくと思います。

これらの活動を行うことで、諸塚の産業が盛り上がり働く場所も増えていきます。働く場所が増えることで、一度諸塚を出た若い人が戻ってくるきっかけになると思います。また、諸塚ブランドに興味を持った他県、他国の方が「環境に配慮した持続可能な仕事」があり大自然の中で生活できる諸塚に魅力を感じ、諸塚に移住したいと思うきっかけにもなるかもしれません。

さらに、UターンやIターンしようと思う人が林業や森林について学びながら生活する場所を作り、そこで諸塚のそのほかの産業や村の魅力についてもゆっくり知ることができるとよいのではないかと考えています。

このように、諸塚は知れば知るほど可能性のある素晴らしい村です。

そんな諸塚村で育ち、たくさんのことを学んできました。そしてこれからもたくさんのことを学んでいきます。その学んだことを諸塚村のために生かしたいです。私が諸塚村のためにできることは小さいことですが、まだまだたくさんあると思います。諸塚村のために一緒に「未来」について考えていきましょう。